

○ 令和2年度の経営目標達成状況及び令和3年度経営目標設定表

I. 最重点目標(成果測定指標)

戦略目標	成果測定指標	新規	単位	ウエイト (R2)	R1実績値	R2		R3目標値	ウエイト (R3)	中期経営計画 (H29~R3)		R3目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の場合は、その理由も記載	
						目標値	実績値 〔見込値〕			R3目標値	最終年度 目標値		
経済的理由により修学を断念しない環境づくり	給付型奨学金の維持・拡充のための寄附金確保		万円	40	5,728	5,000	[11,601]	↓5,000 ⇒↓5,700	40	4,000	4,000	中期経営計画より給付人数を増やしたため、中期経営計画のR3目標値を上回る値を設定。	
法人経営者の考え方(取組姿勢・決意)										戦略目標達成のための活動事項			
最重点とする理由、 経営上の位置付け	<p>○大阪府育英会では、向学心に富みながら経済的理由により修学が困難な生徒への奨学金貸付事業を実施してきた。しかし、雇用環境の変化等による非正規雇用の増加に伴い収入が不安定な方が増加し、奨学金の返還が滞る結果となっている。</p> <p>このような中、返還を要しない給付型奨学金は、教育の機会均等を図り、次代の社会を担う有用な人材を育成するために、極めて重要であり、高校生が将来の返済を考えると安心して学校生活を送るために、大きな役割を果たすものである。そのため、育英会では、給付型奨学金事業を奨学金貸付事業と併せて主要事業の一つとして位置づけ、事業の維持・拡大を図っていきたく考えている。</p> <p>○育英会では、給付型奨学金事業として、しっかりと将来への夢を持ちながら、経済的な理由により学習環境に恵まれない高校生を支援するため、平成23年度に(株)ユー・エス・ジェイ(USJ)からの寄附金を原資とした「USJ奨学金」を、平成26年度には民間企業・団体等からの寄附金を原資とした「夢みらい奨学金」を創設した。今後も、このような高校生の“夢”の実現を支援するため、一層の事業拡大を図っていきたく考えている。</p> <p>○このようなことから、給付型奨学金事業の事業資金となる寄附金の確保が、今後さらに重要となるため、最重点目標とするものである。</p> <p>○なお、令和3年度は、給付人数を『USJ奨学金』は15名、『夢みらい奨学金』は120名、合計135名の高校生等に対し給付する予定であり、今後も継続して事業を実施していくためこれらの資金となる寄附金の確保を目標値とする。</p>										<p>○経済関係団体や企業、役所、病院、高齢者施設、図書館などに対し、給付型奨学金事業の意義や資金確保の必要性について、積極的に情報提供を行い寄附の拡大につなげる。</p> <p>○給付を受けた奨学生の寄附していただいた方に対する思いを「奨学生の声」として育英会ガイドブックやホームページに掲載し、給付型奨学金事業への理解・協力を求める。</p> <p>○奨学金給付を受けた夢みらい奨学生に街頭募金に参加してもらい、奨学生自らが給付型奨学金事業の意義を訴えることにより、広く府民の方々に関心を持ってもらい寄附の拡大につなげる。</p>		
最重点目標達成のための 組織の課題、改善点	<p>○給付型奨学金事業を安定的・継続的に実施するには、事業原資となる寄附金を確保しなければならない。寄附金確保には、広く府民等に寄附を募るとともに、奨学金制度の意義を企業等に理解していただき、寄附に結びつけることが必要となる。そのためには、寄附金により奨学金を受けた奨学生の思いを伝え、寄附金が有意義に活用されていることのアウトプットが重要となる。</p> <p>○また、事業を実施していくための体制整備・活動経費の確保も課題となっている。</p>										<p>○寄附の継続による夢みらい奨学金給付事業の円滑な運営を図るため、寄附していただいた方々に奨学生の認定式に参加していただき、事業への理解を深めていただく。</p> <p>○寄附していただいた方々に夢みらい奨学金のサポーターとなって広く寄附金の確保等を知人の方々に呼びかけていただき、給付型奨学金事業の広報啓発に努め、広く府民から寄附を募る。</p>		
活動方針	<p>○給付型奨学金事業の原資の確保を図るため、企業・団体、府民、マスコミに対し、この事業に関する情報提供を積極的に行い、事業の意義や資金確保の必要性について理解を求め、寄附の拡大につなげる。また、奨学金給付を受けた奨学生にも積極的に募金活動に参加してもらい、奨学生自らが給付型奨学金事業の意義を訴えることにより広く府民の方々に関心を持ってもらい寄附の拡大につなげる。</p>										<p>○大阪マラソン(令和4年2月開催予定)のチャレンジパートナー(寄附先団体)に選出されたことから、チャリティランナーを通じて寄附を募るとともに、夢みらい奨学金事業の周知を図る。</p>		

法人名

公益財団法人大阪府育英会

■ 令和2年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔1〕

成果測定指標	単位	R2年度の実績値〔見込値〕	R3年度の目標値
給付型奨学金の維持・拡充のための寄附金確保	万円	〔11,601万円〕	5,700万円

マイナス
（現状維持）
目標の考え方

育英会では、ポスター・チラシやホームページ、街頭募金などで広く府民に周知し寄附金の確保に向け鋭意努力しているところ。令和2年度実績（見込）は、企業・団体からの大口の寄附金により目標を大きく上回ることができた。

しかしながら、企業・団体からの寄附は、経営状況などによって大きく左右されるため不確定な要素が多く、また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により厳しい経済状況となっている中で、同規模の寄附を確保する見込は立っていない。

このようなことから、令和3年度目標額は令和2年度実績を下回るものの、安定的に給付型奨学金制度を維持できるよう、**5,700万円**（中期経営計画より**1,700万円**増）を目標額としたい。

今後とも、給付型奨学金の実績を積み重ね、府民、企業・団体に奨学金の役割や意義を訴え、より多くの府民や企業・団体等から継続して寄附を募っていく。

〔2〕

成果測定指標	単位	R2年度の実績値〔見込値〕	R3年度の目標値
償還金回収コスト比率 （回収コスト／償還金収入 （繰上げ償還額除く））	%	〔4.73〕	5.02

マイナス
（現状維持）
目標の考え方

償還金の回収コストについては、これまでも削減に取り組んできたところであるが、償還金収入が生徒数の減少や経済状況の好転による影響等から、奨学金の利用者が減少したことにより、貸付額が縮減し、これに伴い現年度の償還金収入が減少している。また、昨年からの新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により返還金の返還猶予が増加（令和2年度は令和元年度に比して約1億円増）しており、令和3年度もこうした状況が続くと予想され、償還金収入はより減少すると見込まれる。

一方、回収に係るコストについては引き続き縮減に努めるものの、償還金収入を上げるために様々な取組みが必要であり一定コストを要する。

こうしたことを踏まえ、令和3年度は、償還金収入を前年度比93%となる**6,590**百万円と見込む一方、回収コストは、近年の奨学金利用者の減少に伴い返還義務者も減少することから、返還金の口座振替手数料や通知書送付費用等の縮減が見込まれ、総額では**330**百万円（前年度比**600**万円減）と見込む。これらから算出される償還金回収コスト比率、**5.02**を令和3年度の目標値としたい。

■ 償還金回収コスト比率 （単位：百万円）

	R2年度 見込	R3年度 目標
償還金回収コスト	336	330
人件費	196	196
物件費	140	134
償還金収入	7,110	6,590
償還金回収コスト比率	4.73%	5.02%